

2023年11月30日

気候変動の疑問に回答し、さらなる理解浸透を目指す

「気候変動 気になること答えます by 気候変動アクションガイド」を公開

株式会社 TBWA HAKUHODO（本社：東京都港区、代表取締役社長兼 CEO：今井明彦、以下 TBWA HAKUHODO）と FUKKO DESIGN（本社：東京都渋谷区 代表理事：河瀬大作）は、一昨年、昨年公開し多くの反響をいただいた「気候変動アクションガイド」（個人版）、「気候変動アクションガイド ビジネス版」に関する疑問にお答えするコンテンツとして、「気候変動 気になること答えます by 気候変動アクションガイド」を公開しました。

Q 再生可能エネルギーってどのくらい有効なの？

A 日本では再生エネルギーだけで現在の発電量全体の最大2倍を供給できると考えられています。

太陽光や風力などによる最大発電量の推計です。

2020年度の発電量全体 vs 再生エネルギーを最大限導入した場合の発電量（推計）

最大2倍

全国の日照や風の強さなどに基づき、採算性も考慮しています。この推計には、バイオマス発電や、森林伐採などの自然破壊を伴う太陽光発電は含まれていません。

出典：環境省「我が国の再生可能エネルギー導入シナリオ（令和4年）」

そもそも再生可能エネルギーとは
「再生可能エネルギー（再生エネ）」は自然界に存在する枯渇しないエネルギーのことで、発電で実質的に二酸化炭素を出しません。

今後有望と考えられている方法

- 洋上風力発電：陸上の風力発電開発が進み、適地が減少していることもあり、海に囲まれた日本では洋上風力発電が有望と考えられています。
- ペロブスカイト型太陽光発電：建物の壁などに設置できる薄くて柔らかい太陽光パネルです。国内では2030年までの商用化が見込まれています。

これってどうなの？ 再生エネの発電量は常に変わるのでは？
太陽光発電や風力発電は、日照や風の強さなどで発電量が変化します。日照や風の強さの変化に対応するため、蓄電池や水素を活用した電力の貯蔵のほか、需要と供給のバランスを調整するシステムの導入などが期待されています。

古くなった発電設備をどうする？
太陽光パネルは15年前後、風力発電は20年前後で設備の更新が必要になるとされています。廃棄物が増えるのを防ぐため、リサイクルの取り組みが進んでいます。

© FUKKO DESIGN 荒木健太郎(雲研究者)、江守正多(気候科学者)、橋本麻良(環境担当記者)、千穂ゆり子(気象予報士)、美高賢治(経営コンサルタント)

「気候変動 気になること答えます by 気候変動アクションガイド」第一弾

「気候変動アクションガイド」は気候変動によって生じる影響、その上で個人がどのようなアクションができるかをまとめた対策集になります。また「気候変動アクションガイド ビジネス版」は、気候変動による企業などに対する影響や、企業が取り組む意義、そして、具体的なアクションなどをまとめた対策集です。それぞれ公開後、多くの好意的な反響をいただいた一方、ご意見やご質問も多く寄せられたことを受け、しっかりと回答することを目的に「気候変動 気になること答えます by 気候変動アクションガイド」の公開に至りました。

■ 「気候変動アクションガイド」(個人版)

URL : https://www.tbwahakuhodo.co.jp/uploads/2021/11/TBWA-HAKUHODO_climate-change-action-guide.pdf

■ 「気候変動アクションガイド ビジネス版」

URL : <https://www.tbwahakuhodo.co.jp/uploads/2022/09/Climate-change-action-guide-for-business-220906.pdf>

■ 「気候変動 気になること答えます by 気候変動アクションガイド」

URL : https://note.com/fukko_design/n/nc8669eeac880

「気候変動 気になること答えます by 気候変動アクションガイド」では、まず第一弾として、本ガイドで最も多く寄せられた「再生可能エネルギーってどれくらい有効なのか」という疑問に対し、本ガイドと同様にデータとイラストを交えてわかりやすくまとめています。

「再生可能エネルギーってどれくらい有効なの？」～気候変動 気になること答えます by 気候変動アクションガイド～

URL : https://note.com/fukko_design/n/n46d800507ee3

気候変動に関する科学で最も権威のある包括的な報告書を作成している国連の「気候変動に関する政府間パネル (IPCC)」は今年3月、人間活動による温室効果ガス排出が主因の地球温暖化によって、極端な天候や異常気象の起こる頻度と深刻さが増していることを改めて発信しています。異常な熱波、そして大規模な洪水や森林火災は、世界中の人々や自然、経済システムに悪影響を及ぼしているため、気候変動への対策は急務とされています。すべての企業、社員が一人一人対策を行なっていくための第一歩として、ぜひ「気候変動アクションガイド」と併せて、「気候変動 気になること答えます by 気候変動アクションガイド」をご活用ください。

プロジェクトメンバー：

- プロジェクトリーダー：木村 充慶 (TBWA HAKUHODO/一般社団法人 FUKKO DESIGN)
- アートディレクター：伊藤 裕平 (TBWA HAKUHODO)、神之田 裕貴 (TBWA HAKUHODO)
- デザイナー：砂田 肇 (TBWA HAKUHODO)

専門家：

- 江守 正多（気候科学者）



東京大学教養学部卒業。同大学院総合文化研究科博士課程修了。博士（学術）。

1997年より国立環境研究所に勤務。国立環境研究所地球環境研究センター温暖化リスク評価研究室長、気候変動リスク評価研究室長、地球システム領域副領域長を経て、2022年より東京大学未来ビジョン研究センター教授(総合文化研究科 客員教授)、国立環境研究所地球システム領域上級主席研究員(社会対話・協働推進室長)。

気候変動に関する政府間パネル第5次、第6次評価報告書主執筆者。

- 夫馬 賢治（経営コンサルタント）



サステナビリティ経営・ESG投資アドバイザリー会社を2013年に創業し現職。東証プライム上場企業や大手金融機関をクライアントに持つ。スタートアップ企業やベンチャーキャピタルの顧問も多数務める。著書『ネイチャー資本主義』（PHP新書）、『超入門カーボンニュートラル』、『ESG思考』（講談社+α新書）、『データでわかる2030年地球のすがた』（日本経済新聞出版）他。ニュースサイト「Sustainable Japan」編集長。

- 千種 ゆり子（気象予報士）



一橋大学法学部を卒業後、インフラ企業に就職。小学校時代から地球温暖化に興味を持ち、もっと地球や気象のことを勉強したいと気象予報士試験に挑戦。2013年に気象予報士資格を取得。その後、NHK青森「あっぷるワイド」への出演を経て、テレビ朝日で勤務、

「スーパーJチャンネル（土曜）」に出演。

2021年10月より東京大学大学院に進学し、地球温暖化と、SNS、社会システムについて研究を開始している。

その他、雲研究者、環境担当記者なども参加し作成しております。

■FUKKO DESIGN について

一般社団法人 FUKKO DESIGN は、「民間ビジネスの力を結集して新たな“復興”をつくる」を活動テーマに、平時のときから行政、民間企業、メディアとのネットワークを構築し、有事の時にすぐにサポートする体制をつくるほか、有事の際の被災地に関する情報発信の支援、復興タイミングにおける地域の魅力発信、企業のマッチングサポート支援などをトータルにデザインしていく団体として活動していきます。<https://fukko-design.jp/>

■TBWA HAKUHODO (TBWA 博報堂) について

2006年に博報堂、TBWA ワールドワイドのジョイントベンチャーとして設立された総合広告会社です。博報堂のフィロソフィーである「生活者発想」「パートナー主義」とTBWA がグローバル市場で駆使してきた「DISRUPTION®」メソッドを中心とした独自のノウハウを融合。質の高いソリューションを創造し、クライアントのビジネスの成長に貢献します。「DISRUPTION®」は既成概念に縛られず、常識を壊し、新しいヴィジョンを見いだすTBWA\HAKUHODOの哲学です。マーケティングに限らず、ビジネスにおけるすべての局面でディスラプションという新しい視点を武器に事業やブランドを進化させるアイデアを生み出します。 <https://www.tbwahakuhodo.co.jp>